

とりまとめ総括

・医療需要のピークを勘案した将来の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との比較では、病床総数は108床過剰であるが、不足となる桑員・鈴亀区域を補い、北勢医療圏として病床を確保する必要があるため、稼働していない病床を除き、病床総数は合意とする。
 ・定量的基準導入後の各医療機能の充足状況を見ると、314床過剰となる急性期機能を除き不足となるため、合意とする。
 ・合意としない急性期病床については、毎年度、協議を繰り返していく中で合意を図っていくこととする。

2019年7月1日時点の医療機能ごとの病床数						
医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・無回答等	計
市立四日市病院	306	260				566
県立総合医療センター	336	103				439
四日市羽津医療センター	4	177	45			226
菰野厚生病院		146	41	43		230
みたき総合病院		81	44	74		199
富田浜病院		60	85			145
山中胃腸科病院		48		45		93
四日市消化器病センター		20		20		40
小山田記念温泉病院			208	169		377
主体会病院			98	130		228
石田胃腸科病院				38		38
水沢病院				38		38
四日市徳洲会病院				30		30
医療法人社団川越伊藤医院		19				19

2025年に向けた役割・医療機能ごとの病床数							
担うべき医療機関としての役割	医療機能ごとの病床数						介護保険施設等に移行
	高度急性期	急性期	地域急性期	回復期	慢性期	計	
高度急性期・急性期医療や政策医療に関する中心的な役割を担う。また、三次救急医療を担う救命救急センターを有し、広域的な対応の役割を担う。 ☑救急 ☑小児 ☑周産期 ☑災害	211	(355)				566	
高度急性期・急性期医療や政策医療に関する中心的な役割を担う。また、三次救急医療を担う救命救急センターを有し、広域的な対応の役割を担う。 ☑救急 ☑小児 ☑周産期 ☑災害	84	(324)				408	
急性期機能を担うとともに、回復期機能の充実に取り組む。また、総合的な医療・介護サービスを提供する病院として、地域包括ケアシステムの構築に貢献する。 ☑救急 ☐小児 ☐周産期 ☑災害	4	(177)	45			226	
菰野町唯一の総合病院として、地域の急性期病院としての役割を引き続き担っていくとともに、回復期機能や慢性期機能も併せ持つ地域の中核病院としての役割を担う。 ☑救急 ☐小児 ☐周産期 ☑災害		(104)	42	41	43	230	
特定病床である産婦人科病床、緩和ケア病床の療養環境の充実に図るとともに、地域の医療機関、介護サービス事業所等との連携のもと、在宅復帰に向けた医療の提供や慢性期患者の受入等の役割を担う。		(36)	45	44	74	199	
整形外科疾患への対応を中心とした急性期医療を継続するとともに、地域における回復期機能の充実に図り、医療から介護へのシームレスな体制で、地域包括ケアシステムを実践する。		(47)	43	55		145	
在宅診療で連携する医療機関のバックベッドや、周辺急性期病院のトランジット病床等として機能し、近隣の医療機関・介護施設と急性期病院との中間的立場や橋渡し役としての役割を担う。			48		45	93	
病院空白区であった四日市西部地区において、消化器疾患や人工透析治療の中心的な役割を担う。		(20)			20	40	
急性期病院の後方病院として、回復期、慢性期の医療を担い、地域包括ケアシステムの構築に貢献して在宅医療と連携する。			113	95	169	377	
急性期医療が終了した患者に対し、急性期後の治療やリハビリテーションを積極的に行い、速やかに在宅に復帰させる機能を担うとともに、地域のクリニックから対応可能な症例の患者を受け入れ、地域医療に貢献する。			45	53	130	228	
急性期病院からの自宅療養が困難な患者の入院療養を中心に、在宅医からの入院受入れを行い、在宅医のフォローや急性期を過ぎてからの社会復帰や施設転院をサポートする役割を担う。			38			38	
認知症患者や精神合併症患者が増加傾向にある中、引き続き、精神科病棟を併設する、内科を中心として扱う療養病棟としての役割を担う。					38	38	
自宅等での受入れが困難で、長期の療養が必要な患者を受け入れる療養病院として、慢性期機能を担う。					30	30	
産婦人科、内科、小児科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。			19			19	

2019年7月1日時点の医療機能ごとの病床数						
医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・無回答等	計
おばたレディースクリニック		18				18
四日市レディースクリニック		18				18
医療法人守屋レディースクリニック		17				17
医療法人 前田医院		17				17
いくわ眼科		5				5
佐藤クリニック			19			19
医療法人 未生会 来田整形外科			18			18
かすみがうらクリニック					16	16
慈芳産婦人科					17	17
計	646	989	558	587	33	2,813

2025年に向けた役割・医療機能ごとの病床数							
担うべき医療機関としての役割	医療機能ごとの病床数						介護保険施設等に移行
	高度急性期	急性期	地域急性期	回復期	慢性期	計	
産婦人科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。			18			18	
産科、婦人科、小児科等を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。			18			18	
産婦人科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。			17			17	
内科を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②緊急時に対応する機能、③在宅医療の拠点としての機能を担う。			17			17	
眼科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。			5			5	
内科、整形外科、循環器内科を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②緊急時に対応する機能、③在宅医療の拠点としての機能、④終末期医療を担う機能を担う。				19		19	
整形外科を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②緊急時に対応する機能、③在宅医療の拠点としての機能、④終末期医療を担う機能を担う。				18		18	
(2025年までに病床を廃止予定)							
(これまで報告対象外(1年以内に廃止予定)であったところ、今回報告対象となったが、過去1年間に入院患者を収容しておらず、2025年の見込みも休棟であることから、病床維持の必要性について確認が必要)							
計	299	1,063	513	325	549	2,749	0

(計)

2025年の病床数の必要量	299	725	874	629	2,527
将来の病床の必要量(医療需要のピークを勘案)	303	749	925	664	2,641
将来の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との差	-4	314	-87	-115	108
協議を継続することとした病床数	0	1,063	0	0	1,063

参考:平成30年度

	医療機能ごとの病床数						介護保険施設等に移行
	高度急性期	急性期	地域急性期	回復期	慢性期	計	
2025年に向けた医療機能ごとの病床数	306	1,051	549	325	549	2,780	0
将来の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との差	3	302	-51	-115	139		